

脚本

【登場人物】

白崎龍哉（14）、川寄はるか（14）、担任（32）

○ 教室・2年4組（朝）

白崎龍哉（14）、机に座り小さい手紙を読む。手紙は川寄はるか（14）からだった。

はるかの声「放課後、教室で待ってます。

言わなあかんことがあるので。はるか」

龍哉「ようやく……（にやけて）やっぱ俺から言わなあかんよな」

×

×

×

龍哉、ノートを取る。教室の扉が開き、担任（32）が入ってくる。

担任「白崎！ お母さんから何か家の大事な用事ですぐ帰らせろって連絡来たぞ。帰る準備せえ！」

龍哉「よっしゃ、部活行かんでもいいやん！」

龍哉、荷物をまとめる。不意に持っていた手紙が目に入る。

龍哉「まあ、明日謝ればええか」

○ 教室・2年4組・扉前（翌日・朝）

担任、席にいるシロを廊下から呼び出す。

担任「隣のクラスの川寄と仲良かったんか？」

龍哉「え、いや、まあ、普通です」

担任「川寄な、転校した。親御さんの仕事で」

龍哉「は？ ……何言うてるんですか？」

担任「川寄の手紙預かってる。お前宛や」

龍哉、手紙を受け取るが、呆然とする。

龍哉「なんで、昨日までおったやん。告白するんやなかったん……なんでや」

龍哉「川寄はるか」とある封筒を開ける。

はるかの声「龍哉君へ。急でごめんやけど、転校することになりました。口スに行きます。ちゃんとお別れしたかったんやけど、最後のあと一歩、踏み出すのが遅かった。でも、最後に言わせてください。ほんまに、ほんまに、大好きでした！ ありがとう」
龍哉、手紙を持ったまま泣き崩れる。

1 龍哉「ごめん……ごめんっ……俺が……!!」
2
3 ○ 野球部グラウンド（放課後）
4 龍哉、周りがバッティング練習をする中
5 グラウンドを走っている。
6 部員 A「シロが真面目に練習してる……朝は
7 ずっと寝込んでたらしいし、大丈夫なんか」
8 部員 B「俺もわからん。ただ、次の大会で優
9 勝したらアメリカの学校との対抗試合に出
10 られるかもしれんって言うたら、急にやる
11 気になっ」
12 龍哉、汗をぬぐい、再び走り出す。
13 龍哉の声「川寄はるかさん。俺決めました。
14 もう二度と後悔せんように生きる。いつか
15 会えた時、もう間違えたくないから」
16
17 おわり
18